

JTAトピックス 2018年2月

日本テコンドー協会入門から約12年継続

野原颯太 (長崎佐世保跆拳道クラブ)

早稲田大学理工学部 推薦合格



12年間担任の廣川禎教三段と野原颯太初段

日本テコンドー協会の七大精神の一つ、「我々は文武両道を志すこと」。

幼い頃、長崎佐世保テコンドークラブに入門し、約12年間、廣川クラブ長の指導を受けてきた野原颯太が在学する名門高校の諸先生方の推薦を受け早稲田大学理工学部に見事合格しました。

まさに文武両道といえます。おめでとうございます！



河明生会長の持論は、

「中学・高校は、基礎的な知性・学力を高めるためにあり、朝から晩まで部活をやるためのものではない。朝練をすれば昼の授業は眠ってしまう。夕方の過激な運動量は予習復習時の集中力を妨げる。青少年期は部活で消費するエネルギーを学力向上へ傾けなければならない。しかし、勉強だけでは健全な成長は望めない。よって運動は不可欠であるが、我が JTA の少年少女部会員は、JTA テコンドーのみで十分である。JTA テコンドーを通じて、礼儀礼節や克己の精神の涵養等、心身の鍛錬をはかり、人格を築き上げるべきだ。部活は感性を高めるための文科系が望ましい」

野原は中学では囲碁将棋部、高校では写真部。運動は、約 1 2 年間、JTA テコンドー一筋。その間、全日本フルコンタクトテコンドー 選手権大会に 3 度出場し、優秀な成績を取めたことから佐世保市から優秀スポーツ選手として表彰されています。野原は、「一番長い担任」＝廣川クラブ長から熱い指導を受け、礼儀正しい立派な好青年に成長しました。学力も優秀なため所属する名門高校の諸先生方から信頼されて推薦を受け、早稲田大学からも経歴や面接等で評価され、合格したと推測されます。少年少女部のみなさん！ 野原先輩に続け！！

指導者・廣川禎教のコメント

2007 年に小学 2 年生で入門してから早いもので高校卒業を迎えました。同時に本人が受験を意識した頃に行きたいと伝えてきた早稲田大学に入学出来たことを大変嬉しく思います。颯太は入門当時よりテコンドーの練習に真面目に取り組んでました。その結果は全日本大会優勝といった各種大会の結果が証明しています。成績と共にクラブの中心的存在となる中でも、道場内では目上の人を敬い、年下の道場生とは分け隔てなく仲良くする事で、大人からは可愛がられ、年下からは慕われていた事が印象的です。その中で、他の道場生に『颯太と一緒に全日本大会に行こう』という目的を与え、そこに長濱 聖英、寺川洸大といった選手が続いてきた事が現在の長崎クラブの成長に繋がっています。これからの大学生活では勉学と共に、より多くの人との出会いで更に自分自身を成長させてくれることを祈ります。

#### 野原母のコメント

小学校の低学年からテコンドーを始めて10年以上真面目に練習してきました。それまで3年間くらいは別の武道をしておりました。そこでは切磋琢磨するという感じではない上に、指導者のあまりに常識の欠けた言動に続けるべきではないと判断し辞めたあとにJTAテコンドーに出会いました。颯太は何の判断もできないくらい幼かったのですが、この出会いが颯太に喜びや達成感や多くのものを与えてくれたのだと思います。振り返ると心の成長もずいぶんありました。結果が残せるようになってからはもっと楽しくなったようでずっと続けると言っておりました。中高一貫校に通うようになってからは勉強との両立が大変だったのですがテコンドーで鍛えた体力と強い意志でやりとげることができました。東京に行きたいとのことで自分の希望する学部のある早稲田大学を選びました。校内推薦をいただけたのも勉強だけでなくテコンドーで結果を残してきたことも要因の一つだと思います。たくさんのすばらしい指導者の方々や仲間にも恵まれて幸せだと思います。

#### 野原のコメント

私が早稲田大学への推薦をもらうことができたのは、テコンドーで培ってきた精神力によるものだと思います。高校での勉強も、この精神力で乗り切ることができました。これも、河明生宗師範、廣川先生をはじめとして、多くの方の支えによるものだと考えており、本当に感謝しています。大学に入ってからできる限りテコンドーを続けていこうと考えています。